

特集

むつ総合病院の 早期再建にむけて

下北地方7万人の医療

一部事務組合下北医療センター
むつ総合病院 管理者
山本 知也 (むつ市長)

聞き手
中村 れな (タレント)

中村「昨年末の地震により、むつ総合病院が大きな被害を受けました。心よりお見舞い申し上げます。まずは被害の状況を教えていただけますか」

山本管理者「12月8日の深夜に地震が発生し、病院は7階病棟のスプリンクラーが破損し、5階から7階の床が水浸しになり、6階病棟の天井落下やエレベーターが故障するなど多くの被害が発生しました。そのため5階から7階の病棟を使用することができなくなり、入院患者133名を外来待合室に避難させました。このうち36名は他の医療機関や介護施設に転院・移送を行い、残りの97名は在宅復帰のほか、転棟など院内の調整で対応いたしました。

使用不可となった5階から7階の病棟につきましても、因は大きく3点。事業費の増大、病院経営の悪化、むつ市の財政への影響であり、当初予定していた総事業費が約2.2倍まで増額しており、財源確保が困難となったことが主要因となっています。

入札中止後、昨年4月からは、新たに一般病棟整備事業として、耐震化及び長寿命化と新築整備の2方向から比較検証を実施して、財務上の検討を加えて、新たな施設整備方針を策定することとしております。

検討の結果、耐震化及び長寿命化の改修については、技術的には実施可能ではあるが、改修工事中に一時的に病棟が利用できなくなり、病院機能を継続することができないこと、併せて収益にも大きな影響を与えることから、前回の計画から規模を縮小し、事業費の抑制を図った上で、再度新築で進めてい

は、震災翌日の12月9日から復旧作業を開始しています。その後は順次応急復旧して、12月19日には、すべての病棟を再開することができています。詳細な地震の影響を把握するため、現在調査をおこなっているところです。

このように、地震被害から2日も早く復旧するため、利用する患者や職員の不安を解消するため、新病棟を整備するとともに、新病棟開院までの間は、既存の病棟を復旧す

ることとし、事業名を『むつ総合病院再建事業』に改めて再スタートしています」

中村「当初、むつ総合病院の病棟は2016年に耐震不足が指摘されて、改修による補強か新築かとの判断が求められ、新築の方針をだされていましたが」

山本管理者「計画では令和元年(2019)から新病棟建設事業に着手し、医療の

充実強化を図ろうと進めておりましたが、令和5年8月の入札に業者の参加者がなく、複数回のサウンディング

調査(民間事業者から直接意見を聞く対話型調査)を経て、翌年の12月に再入札をしましたが、予定価格の制限内の入札がなく、再度公告するも、去年3月に一旦入札を中止して、病棟整備について新たに再検討を開始することとなりました。

入札の執行を中止した要